

「第23回福島県男女共生のつどい」への参加感想

団体名	各団体の所感
会津若松地区保護司会	震災の前年、会津若松市で開催された大会と比較して、段々規模が小さくなり、寂しい感じがした。皆さんの意識が後退してしまったのか・・・そうだとすると残念です。 講師の山口さんの話しは、中高生や若い人にも聴いてほしい進学や就職等のことで悩んだ時の指針になると思った。
退職女性教職員あけぼの会 北会支部	男女共同参画に關しての川柳コンクール、小・中・高・一般の部での入学者が表彰されましたが、それぞれの作品には男女平等意識があふれており、家庭・学校・社会の中でジェンダーフリーに取り組むことの大切さを改めて考えさせられました。 講演では、山口真由氏自身がコンプレックスから猛勉強し難関を突破してきたものの、常に「女性初の」ということで注目を浴び、自分らしく輝けなかったという体験を話されました。一人で頑張りすぎて、周りに相談できなかったとのこと。傍から見ると輝かしいばかりのキャリアの持ち主の苦しい経験を聴き、「女性初」「女性なのにすごい」という目で見られない世の中になるとよいと思いました。
福島県国際女性教育振興会	第一線でご活躍の山口真由さんは澁瀨として、歯切れもよく、さわやかな気持ちが伝わった。 ご自分のこれまでの生き方を通して、女性であることの生きづらさや、それをも払拭して、自分らしさを貫き、今の自分がここにいるのだという力強さを感じました。 赤松良子元文部大臣が常々『女性はしたたかにしなやかに』と言っておりましたが、彼女もそのように思いました。 今日の講演を糧にして、これからも後輩を支援していきたいと思います。 郡山の担当者も皆さんそれぞれにテキパキとしていて気持ちがよかった。 来年からは「福島県男女共生センター」で開催ということなので、出来る限り参加したいと考えている。 ありがとうございました。
国際ソロプチミスト会津	「誰一人として取り残されず、一人ひとりが性別にかかわらず個性と能力が十分に発揮でき、お互いを認め合い、責任も分かち合う豊かな社会を構築していくことを目指す」ことを趣旨とした大会でした。初めての参加でしたが、県内の男女共同参画の活動に関わっている方々が男女問わずたくさん参加していました。 今まで自分自身についてあまり深く洞察したこともなかったような気がします。ごく当たり前のように生きてただけです。今日の山口真由氏の講演を聴いて、まず自分自身について知ることが自分らしく生きる第一歩になり、仕事も嗜好も決まってくるのだと思いました。これからは、未来ある若い方々に、「まず自分自身をよく知ること」が第一歩であることを言ってあげたいと思います。私自身はせめて関わる方々の人権を侵さないよう配慮していくようにしたいと思います。
会津若松市男女共同参画推進 実行委員会	今回の大会は、「郡山市制施行100周年」にちなんで、開催されたフェスティバルであったので、あくまで全市的な大規模な祭典であったので、感心した。 “ジェンダー平等”の視点を拡大するか、深めるかの二者択一であるとすれば、前者であった。故に幅広くよびかけて、歳月をかけて、準備されたことに敬意を払う。 ご講演の内容については、一般市民向けというよりは、大学の講義のようであって、どれ位の方々が納得したか、少々疑問が残った。だが私は大満足でした。 大会宣言（案）には拍手です。方向性といい元来のつどいの真価をしかととらえていて、納得しました。 久しぶりに県レベルの大会に出席させていただき、まことにありがとうございました。